



【八工大―八学光星】タイブレークの11回裏、八学光星無死満塁、野元が左前適時打を放ち9―8でサヨナラ勝ち。捕手・砂唯

光星 11回サヨナラV

秋季 県高校野球

最終日

工大一との激闘制す

秋季東北地区高校野球県大会は最終日の22日、青森市の県営球場で決勝と3位決定戦を行った。決勝は八回学院光星が延長タイブレーク11回八工大一に9―8のサヨナラ勝ちを収め、5年ぶり18回目の優勝を果たした。3位決定戦は青森山田が弘前東に6―5でサヨナラ勝ちし、5年連続の秋季東北大会の切符をつかんだ。八学光星、八工大一、青森山田の3校が出場する東北大会は10月9日に岩手県内で開幕。東北大会の結果は、来春の選抜高校野球大会(センバツ)の選考材料となる。

(佐藤正悟、加賀谷行な、長内健)

▽決勝(県営)
 八工大一 0210000000
 八学光星 000000300

3x2B
 3x9

(延長11回タイブレーク)
 (一)亀井 今(砂唯)
 (二)尾形 秋元 中嶋 北
 (三)鈴木 和也
 (四)亀井 勝(工)
 (五)二打 勝(工)北口
 (六)新井(学)
 (七)暴投 亀井(工)北口(学)

【評】八学光星が3時間22分に及ぶ激戦を制した。0―3で迎えた八回佐々木、新谷翔の連打で同点に追いつき、延長戦に突入。タイブレーク11回、無死満塁の好機から山入端の右前適時打と押し出し死球で同点に追いつくと、野元の左前へ

のサヨナラ適時打で試合しきを止めた。

八工大一は亀井の本塁打などで序盤に3点をリードするも、それ以降は九回まで無安打と打線が沈黙した。

亀井17球熱投も「粘れず力負け」

準決勝まで一人で投げ抜いた八工大一のエース亀井は、この日も延長10回までマウンドに立ち75球の熱投、七回から脚がつり始め、八回に二者連続四球から3点を奪われた。「粘り切れず力負けした。ふがいない気持ちでいっぱい」と悔

悔しさ糧 決勝打 光星 野元

で右手首の骨髄(ゆうじ)骨を骨折した。けがで練習が思うようにできず、「悔しかった」と振り返る。前日の準決勝後、仲井監督から「これで試合が楽しいのが、自信ないなら直前まで振り込め」と話を入れられた。悔しさを糧にバットを振り、結果を出したヒーローは「試合を楽しめた」と笑顔だった。

「甲子園に行きたい」と沖縄から八学光星に入學。今大会で「精神面が鍛えられた」と話す。東北大会に向けて「自分のパターンと守備で優勝したい」。背番号18は夕日を浴び、ナインの思いを代弁した。(加賀谷行な)